

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1F)

事業所番号	2796000053
法人名	株式会社カームネスライフ
事業所名	グループホームこころとからだ東湊
所在地	大阪府堺市堺区東湊町6丁358-1
自己評価作成日	令和 7年 2月 20日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和 7年 3月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①屋内や外出での行事やボランティアの方々をお招きし、入居者様には活気ある生活を送って頂けるよう努力しています。
- ②ケアに関しましては入居者様が「その人らしく」生活できるよう個別のケアを心がけています。また、過介護になり過ぎないように、できる事は実践して頂ける環境作りも意識しています。
- ③職員の研修は動画研修を取り入れており、何度でも確認が出来るので、実践しながらケアの質を高めていけるように日々自己研鑽しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「穏やかな生活」を意味する運営法人(株)カームネスライフは大阪府内に18箇所のグループホームと2箇所の小規模多機能型施設、兵庫県に1箇所のグループホームを展開している。当事業所では「その人らしく自由に過ごせるように」との思いで皆で何かをする時も無理強いせず、本人の意思を尊重するようにし、気が向いた時に一人だけでもその時にしたいと言うことをしてもらうようになっている。開設当初は地域住民の反対運動があったが、利用者がよく利用する公園の掃除をしたり、散歩の時のゴミ拾い、少し高いが近くの米屋で米を購入したりして今では地域との関係性はとても良くなっている。管理者は研修動画を自ら作成し、何度でも繰り返し視聴できるようにしたり、職員会議もリモート参加ができるようにして、職員の質の向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念が職員の共通の目標として意識付けられる様に、各フロアに掲示している。 また、朝礼時に唱和し、理念の実践に繋げている。	法人理念とは別に事業所で考えた「私たちは入居様が楽しく生活を送り、生き活きと快適に過ごせるよう環境作りに努めます」を各フロアに掲示している。フロアだけでは無く更衣室や職員との理念の共有を図るため、職員向けに動画を配信しているが理念の共有は図れていない。	管理者の交代があり、理念の共有の方法については管理者もいろいろ検討している。毎月行われている職員ミーティングで理念を再考したり、どうすれば職員皆で共有できるのか話し合い、事業所の理念が共有されることを望む。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方の受け入れをして地域との関わりが継続できるようにしています。	自治会に加入し、民生委員の家族が職員として従事している。近隣の散歩に行く時にはいつも利用している公園の掃除や、周辺のゴミ拾いをしている。近所の米屋から米を購入したり、ボランティアの受け入れ、地域の祭りの寄付、近所の障害のある人の施設と交流し日常的に地域と付き合いをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣関係各所にはパンフレットを配布して、認知症の支援についてお知らせしている。 入居様が地域の行事に参加する事が、地域の方々への「認知症の理解」の発信になっていると思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、出席者にはホームの運営状況を報告し、そこで抽出された家族様からの意見や要望を検討し、次の運営推進会議でフィードバックしている。	奇数月に自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族と事業所職員で運営推進会議を開催している。「事故の詳細を知りたい」「事業所で使用している電界除菌水の有効性について知りたい」など参加者からの意見や要望があり、すべての事故について事故報告書を開示したり、業者に来てもらい有効性について実験をしてみてもらった。議事録は家族と関係者に郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の方もおられるので、市町村との関わりは密である。(支援課の定期的な訪問もあり) 又事故報告や苦情報告の提出等で、必要に応じて連携を図っている。	生活困窮者の受け入れを行い担当者とはオムツの申請や訪問、連絡など役所と関わる機会は多い。地域包括支援センターからの困難事例の受け入れ相談や、市から発信されるメールの対応、研修案内で研修に参加したり、後見人制度の申請で役所に繋ぐこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止はもちろん、スピーチロック等の行動制限をしない様に努めている。玄関は安全上施錠を行っているが、エレベーター等を使用し、各ユニットへの移動は自由に行っている。	身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会を3ヶ月毎に開催している。指針の整備と研修は年2回以上実施している。言葉による抑制がないように言葉の言い換えをするように工夫したり、ユニット間は自由に行き来ができるようにしている。職員のストレス回避のため勤務中も気分転換のためのちょっとした休憩が取れるように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束委員会を設置し、内部研修(3ヶ月1回)を行い、実施している。防止策の実践と常に意識の向上に努めている。また、入浴の更衣時などに身体チェックを行い、いち早く異常に気が付くようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	動画研修を活用し権利擁護については、情報を共有できている。また、後見人制度を活用されている方もおられるので、スタッフへは適宜制度の話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に「契約」「解除」等の説明は充分に行っている。また改定などは運営推進会議で説明し意見を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族の意見を伺えるように、職員全員で日々対応している。運営推進会議の場でも家族のご要望や意見を聞いており、ご意向に沿えるよう検討している。	面会時に利用者の様子を伝えたり、訪問診療の診察内容の報告をする等して家族との連絡の機会を持ち、何でも言えるような環境を整え継続できるようにしている。家族から訪問理容の時の髪の長さや、家族が持ってきた服を着させて欲しいなどの要望があり、直ぐに対応できることはしている。利用者同士のトラブルから居室変更の希望があった時には、双方の家族と調整しながら対応した。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや連、月1回の職員会議を通して、職員の言いやすい環境を作る様心掛けています。	毎月ユニット合同で職員ミーティングを開催している。会議では利用者のケアについてや職員が担当している委員会からの提案や報告がある。当日会議に参加できない場合はリモートでの参加もできる。勤務時間を変更することで業務がしやすくなったという事例がある。職員は会議だけではなく日頃から意見を言う機会はある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の整備を行っている。 また目標設定記録を定期的に記入してもらい目標や実績を確認している。 また各委員に所属し、従事する目的意識の獲得を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は積極的に参加している。 また様々な場面での介護技術を実際に教える機会を促して共有し、職員全員が同じケアが出来るように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のケアマネ会議や館長会議での交流はあります。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅等に訪問して面談を実施し要望を確認している。 入居後も定期的(ケアプラン更新時)に意見、要望等を確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事や不安、または要望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に要望を確認し、必要な他サービス利用も可能な限り提案、実践している。 (往診、受診、訪問理容、訪問マッサージ、訪問歯科等の連絡調整)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中での掃除や洗濯、調理など出来る事を見つけ、助け合う関係を職員・入居者様同士でも持てるように努めている。散歩や買い物等外出する機会を持ち、会話などから共感しさらに信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見、要望等を踏まえた上で、本人本位である事を家族と共有し、その上で本人を支える関係づくりを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係のある方は家族以外でも面会できるようにしています。	家族以外では知人や幼馴染の人が面会に来てくれる。以前からハーモニカを吹いていた利用者が音楽ボランティアの人と一緒に演奏したり、花の好きな利用者は職員と一緒に花の水やりをしたり、懐かしい歌を唄ったりして今まで好きだったことが継続してできるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、レクリエーション、催し等は入居者様・職員と一緒にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況の確認や報告等を電話、メール等で連絡している。 転居先の施設、病院への面会も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や生活状況の確認を日々行い、意向の把握に努め、ケアプランにも取り込んでいる。また困難な場合は各職員や家族との意見交換を行い検討している。	普段からできるだけ利用者とコミュニケーションをとり、何が好きか、どのようなことがしたいのかを聞くようにしている。「家に帰りたい」という利用者の意向を聞き、自宅に帰り家族と面会したことがある。食べ物に関しての思いには食べやすく、美味しい物が提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話を聞いて、安心して今まで通りの生活ができるように努めている。又本人様の好みに合った援助を行い、記録に残す事で経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が様子を観察し気付いた点を話し合い、本人様が今できる力を常に把握しケアプランに活かせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族様の意向に添えるようにスタッフ間で実践に向けての意見交換や必要に応じて医師や看護師、訪問マッサージ等に相談し意見を聞きケアプランを作成している。	長期目標期間を1年、短期目標期間を6ヶ月として介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、計画を継続するかどうかを判断している。利用者が入退院したり、今までできていたことができなくなった場合など状態に変化が生じた場合は家族、職員、医師、看護師などの意見を参考にして計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活面や表情や言葉の意味にも目を向ける様に記録に残している。知り得た情報や、気付いた事があれば会議や申し送り時に話し合いをし情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問理容、訪問マッサージ、訪問看護、病院受診、整骨院受診など、要望や必要性に応じて活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩や町内会のお祭りに行ったりと、地域資源を活用し安全安心な暮らしを送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	普段の状態を記録把握し、往診受診時に報告できるようにしている。何かあれば随時クリニックに相談対応している。 また、必要時は外来受診も支援している。	契約時に利用者・家族に説明し、全員が協力医とし内科は月2回、歯科は毎週歯科衛生士同行で希望者のみ訪問診療を受けている。診療状況は都度家族に連絡している。主治医の指示で精神科の訪問診療を受け、皮膚科等その他の科には職員が付き添い受診している。看護師は週2回勤務し健康観察をし、褥瘡が出来た時には医師の特別指示書で訪問看護師が褥瘡の処置を行い医療連携が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週健康チェックを行っている。小さな変化でも看護師に報告し確認、情報を共有している。相談、対応法、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は必ず管理者は病院に立会い、治療方針を把握している。また状態の伝達、アセスメント表を開示している。入院中は面接、カンファレンス等に立会い、病院との情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針は入居時に家族様に説明を行っている。心不全や急変を起こしうる入居者様の症状や注意点等医療機関より説明を受け、その時々に対応法を職員間で共有し、家族様にもその都度報告している。ターミナルケアについての研修も行っている。	契約時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針書」で説明して書類を交わしている。利用者が看取り状態になった時は主治医より家族に説明して確認し、今までは療養施設・病院・有料老人ホームに移り、看取りは行われていない。職員は動画研修で学び看取りケアの準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等を常に確認し、予想される症状別の対応法等も把握するよう心掛けている。 また動画研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルなどを作成し、定期的に避難訓練をおこなっている。運営推進会議で避難場所の確認も行っている。	マニュアル・連絡網・ハザードマップの確認をし、年2回の災害訓練の予定を消防署に提出し、自治会長・民生委員の参加を約束しているが年度末に立て込んでいる。非常物品の水・缶詰・懐中電灯・カセットコンロのうち、厨房で食品を用意し担当者を決め管理している。法人にて発電バッテリーの件を話し合っている。近隣在住職員に災害時参集を要請している。	年2回の災害避難訓練は、実施時期も十分考慮して計画を樹て、無理なく訓練を実施し、日頃からの災害時の心掛けと意識の徹底を図られることを望む。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には敬語(丁寧語)を基本としている。 認知症の方へのケアについても研修を行っております。	職員はプライバシー・接遇の動画研修を受け研修報告書を提出して確認している。(外国人職員は翻訳アプリを利用している)管理者は認知症であっても人生の先輩として敬語で丁寧な言葉使いで失礼のない対応を伝えている。排泄時の声掛けには留意し、入室時は声を掛け入室している。個人情報の書類は施錠できるキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の方が安心できるようお声がけや研修を通して支援できる体制を作っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、個人個人のペースを守りながら、出来るだけ個別の対応ができるようにその日の流れを変えながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を2ヵ月に1回実施している。 着替えの際(入浴、外出時等)は、本人に選択をお願いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付け、準備できる方には食材を切ってもらうなど職員と一緒にしている。食事レク等で入居者様職員と一緒に昼食作りなども行っている。たとえミキサー食の方であっても、食材や行事食で少しでも楽しめるように他の方と同じように見えるよう成形し楽しんで頂いている。	食材業者より栄養面に配慮したメニューの食材が運ばれ、調理担当職員が手作りの美味しい食事を、職員と一緒に食している。おせちなど行事食のメニューもあり、ホットケーキや粉もんのおやつ作りを職員と一緒に楽しんでいる。チラシを見ながら食べたい物、好きな物ものを聞いている。今後はデリバリーを利用したりバーベキューなどをしたいと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量や形態、好みを把握し、提供している。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物を用意したり、ゼリーを作ったりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行って、1人1人必要に応じて支援をしている。週に1回は歯科往診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、周囲に配慮しながら声掛けを行って、トイレでの排泄支援をしている。	布パンツ・リハビリパンツの声掛けの必要な人には声掛けをし、立位のとれる人は日中はトイレで排泄をしている。夜間は2時間毎に巡視して安眠を妨げない様オムツ・パッド交換・トイレ誘導等利用者にあった排泄の支援をしている。5名の利用者はポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を日常的に促している。 散歩、屋外での歩行運動等を実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や気分に配慮しながら、気持ちよく入浴してもらえるように心掛けている。体調や気分がすぐれない時は、時間を空けたり翌日にしたり、足浴や清拭更衣等を行ったりと臨機応変に対応している。	週3回を基本に利用者の様子を見て午後に入浴し、嫌がる利用者には時間や人を代え、また、シャワー・清拭にしたり柔軟に対応している。重度の人には2人介助やシャワー・足浴をして対応している。お湯は毎回取り替え1対1で会話を楽しみ・好きな音楽をかけて楽しんでいる。入浴後は保湿剤を塗りケアしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、本人に確認してから就寝を行っている。また日中でも適宜休息を取って頂いている。 定期的なシーツ交換、布団干しを行っている。 空調管理も徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストは個別に管理し、状況を把握している。スタッフも閲覧できるように管理されている。 また症状や変化を観察しながら、適宜医師、薬剤師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での張り合いや喜びは様々で、食事準備や体を動かす事、買い物・散歩と各々に合った支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大仙公園が近くにあるのでお花見や紅葉など自然とのふれあいも大切にしています。	事業所周りを散歩したり近くの公園に行って日向ぼっこし、道端のゴミを拾いながら散歩している。お花見・紅葉見物に近くの大きな公園にドライブしてお茶タイムをしている。今後は利用者の行きたいところや外食の計画を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにならないように気をつけながら支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話は、掛けたり取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快や混乱を招かぬよう配慮し、季節感のある飾り付けで工夫している。 清掃し清潔な状態を維持できるように配慮している。	入り口のガラス戸を入ると右に事務スペース・調理スペースと長いカウンターが続き、反対側に部屋が並んでいる。壁にお雛さん・利用者の習字・額・手作りのカレンダー・ドライブした写真を貼り皆の笑顔が写っている。利用者はテーブルに座り新聞を読んだり談笑している。気化式加湿器を置き定期的に換気をし、毎日掃除をして居心地よくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるようソファを設置している。 自由にフロアーを移動して頂き他者と会話をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使っていた家具やベッド等家族と相談しながら、馴染みのあるものを持って来て頂き、居心地よく安心できる空間作りを心掛けている。	入り口に花や木の木製のプレートに名前を貼り折り紙の作品で分かりやすくしている。居室にはベッド・クローゼットを用意し、利用者はテレビ・筆筒・位牌やご主人の写真を置き3点セットのテーブルには好きな花を飾り趣味のギターを置いていたり、利用者好みの部屋作りをし、整理整頓して居心地よくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は識別できるように、居室・トイレ・風呂等表記している。居室内もクローゼットなどはわかりやすい様に収納の区分けをしている。		